

元気に な～れ

409

薬を飲むこと ～服薬に注意！！～

今月は 社会福祉士 畑山 賢二 です

薬が大事であることは当たり前の認識だと思います。

高齢者などの自宅を訪問し「薬はきちんと飲んでいますか？」と問いかけると、ほぼ全員が「薬（だけ）はきちんと（まじめに）飲んでるよ！」と返答されます。

その後が問題です。残っている薬を確認させてもらおうと9割以上の方が処方どおりに服用しておらず大量に余っていたり、一部の薬（特に眠剤が多い）に依存し必要量以上に処方を受けていたりしています。薬に対する依存心が強く、何年も前に処方された薬を大事に保管している方、そもそも飲み方を間違っている方、自分で服用量を調整して飲んでいる方、認知機能低下などが原因で飲んだことを忘れて複数回分を飲んでしまっている方など様々です。

特に高齢者の場合は、複数の病気を患っていることも多いため、それに比例し薬の種類も増える傾向もあり、身体機能の低下から副作用（薬の本来の目的以外の作用が現れること）や相互作用（薬の効き目が強くなったり、なくなったりすること）が起こるリスクが高く注意が必要です。

◆要注意！！

副作用について概ね理解していると思いますが、日常生活で起こる体調不良（頭痛、だるい、頭がスッキリしない、身体の動きが悪い…など）には、それを疑うことなく受診している方も少なくないようです。

高齢者などの自宅訪問でみる場面では、処方どおりに服用できていないことで体調不良になっていたり、ひどい場合は、意識がもうろうとしてソファーに座っていたり、言葉もスムーズに出ず身体を思うように動かせない、時には倒れている場面を発見することもあります。

薬をきちんと服用できていないことで体調不良となり病院で受診し、新たにもらった薬も処方どおりに服薬できていない、主訴に対して処方された薬が既にもらっている薬と作用が重複するもの（重複処方）であるなどで、更なる体調不良の悪循環に陥っている方もおります。

更には、自分に処方された薬を、他の方に譲ってしまっている方すらおります。



◆きちんと服薬管理して良好な生活を！！

- ・自分が飲んでいる薬を知り、処方どおりに服用しましょう！
- ・体調が悪いなどの異常を感じたり違和感を覚えた場合は、自分で服用方法を調整せず、必ず医師に相談しましょう！
- ・重複処方を避けるため、かかりつけ医以外で受診する場合は、「お薬手帳」などを活用し、現在処方を受けている薬がわかるものを医師に提示しましょう！
- ・自分が受けた処方薬は、安易に他人に譲らないこと！
- ・飲み忘れなどが気になる場合は、「服薬カレンダー」や「服薬アラーム」などの活用も有効です！
- ・認知症の方などの服薬管理は、第三者の介入が必要です！